

消防 狛江市消防団の今と昔



狛江市消防団の歴史は、明治28年12月に創設された狛江村消防組まで遡ります。この狛江村消防組は、全村を5組に分け、当時の狛江村役場に設置されました。

昭和2年、小田急線が開通したこともあり、村は人口が増加。昭和5年12月、第6部の小足立・覚東を分割し、7部編成となりました。これが、現在の消防団組織の基礎となっています。昭和14年1月、警防団令が施行され、狛江村消防組は狛江村警防団として改組、戦後の昭和23年消防組織法の施行により、狛江村消防団として、小川利太郎初代団長のもと、総団員数202名で再出発しました。昭和27年11月、町制施行に伴い、狛江町消防団と改名。自動三輪ポンプが各分団に配備され始めました。



昭和41年の消防ポンプ自動車

昭和45年10月、市制施行により狛江市消防団と改名し、大久保勝義第3代団長のもと、総団員数108名で活動しました。

昭和49年の多摩川堤防決壊の際には、水防活動のほか、避難命令の広報や誘導、夜間警戒活動等を行いました。装備については、昭和58年に現在と同じ車種の消防ポンプ自動車



現在の消防ポンプ自動車

防火服についても、初期の頃は半纏でした。が、耐熱性能に優れたアラミド製の最新のものがへと変わっています。



半纏(年代不明)



現在の防火服



初期の防火服

また、器具置場についても耐震化を行っていき、地域の災害時の拠点として機能するように新しくなっています。

平成16年10月の新潟県中越地震では、狛江市のふるさと友好都市である川口町(現 長岡市川口地区)が被災したことから、狛江市消防団は、発災直後に鈴木一光第10代団長以下10名の団員が被災地に入り、支援物資を届け、余震が続く中、孤立した集落まで仮設トイレを徒歩で運搬、設置する等の支援・救援活動を精力的に行いました。平成

狛江市地区消防隊紹介

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を教訓として、消防活動を主とした地域防災の強化・推進のために、消防団員OBを中心として、狛江市地区消防隊を組織しています。消防団の7個分団編成時代の地域を採用し、全7地区で活動しています。毎月、各種器具の点検及び訓練等を行い、大規模災害時の活動に備え、消防団を退団した後も、狛江市の安心安全のため、活動いただいています。

23年4月には、第6分団と第7分団を統合、野川分団として、6個分団に改組しました。旧第6分団の消防ポンプ車は、東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市に寄贈し、石巻市との災害時応援協定締結のきっかけのひとつとなりました。

最近の活動では、火災対応のほか、AEDの普及に伴い、応急救護活動普及のため、団員が応急救護普及員・指導員の資格を取り、市民の方を対象とした普通救命講習会等を積極的にを行っています。



普通救命講習会の様子

また、各地域の防災訓練でも指導を行うようになりま

このように、狛江市消防団は長い歴史のなか、伝統を守りながら、各時代に即した活動を取り入れて、日本一安心で安全なまちづくりのためご尽力いただいています。

防犯 自転車盗難を減らすには

平成27年は、自転車盗難が刑法犯認知件数の約4割を占めています。特に自転車盗難の多い地域は和泉本町1〜4丁目地域と元和泉1〜3丁目地域です。狛江駅、和泉多摩川駅の利用者が自転車を駐輪場に置くことが多いためと考えられます。犯人はできるだけ簡単に盗難できる自転車やバイクを選びます。駅前の駐輪場を利用してはいる方は、駐輪場に自転車を停めてあるからと油断せずに、鍵をかけることを習慣づけましょう。

「駅前に駐輪している人目がある」というわけではありません。駅前には人がたくさん集まりますが、人の視線が分散し、盗難しやすい状況でもあるということを覚えておきましょう。自転車盗難対策としては、ツーロック(元々ついている鍵にプラスして2重に鍵をつけること)が効果的です。

住宅敷地内での自転車盗難にも注意が必要です。たとえ自宅敷地内であっても必ず施錠し、道路からすぐに持っていける場所には自転車を置かないようにしましょう。

皆さん、自転車やバイクの防犯登録はしていますか?防犯登録のシールを貼っておくことで、「防犯に気を使っている」という犯人へのアピールにもなります。

安心で安全なまち狛江を目指して、自分ができることから取り組みましょう。

住居侵入対策

- 家にいる間やわずかな時間の外出でもしっかり施錠する。
- 家の周りに侵入のための足場になるものを置かないようにする。
- 長期間家を留守にする場合は、新聞、郵便の配達休止手続きを行う。
- マンションの高層階でも屋上やベランダから侵入されるケースがあります。オートロックのマンションでも油断せずに防犯対策を。

ひったくり対策

- バッグはたすきがけにする。
- 手荷物は歩道側に持つ。
- バイクの音には振り返り、警戒する。
- 自転車のかごにはカバーをつける。
※安心安全課窓口で自転車用カバーを配布しています(お1人1枚)。
- 歩きながらのメールや通話、イヤホンの使用は控える。



▲防犯効果の高い鍵をつけましょう